第３節　関係団体ヒアリング結果からみる活動者の意識や課題

１．関係団体ヒアリングの概要

市内福祉関係団体へのアンケート調査結果を受け、あげられた課題に対する意見や団体からみた本市の課題、必要な取り組み等を把握し、施策の立案等に活用するとともに、団体同士の交流、意見交換の場づくりを目的に実施しました。

□■関係団体ヒアリングの実施概要

〇実施対象団体
関係団体アンケート調査に回答いただいた 27 団体のうち、８団体の代表者

〇実施日時
平成 28 年７月 28 日（木）　13 時 30 分～15 時 30 分

〇実施場所
南国市社会福祉センター　２階　大会議室

□■ヒアリング調査対象団体

	団体名
1	高知県ホームヘルパー連絡協議会
2	地域活動支援センター「南国」
3	南国市地域包括支援センター
4	特定非営利活動法人　まほろばクラブ南国
5	南国市あったかふれあいセンター
6	南国市地域活性化のための自治活動団体連合会
7	南国市民生児童委員協議会
8	傾聴ボランティア南国きく会

2．ヒアリング結果のまとめ

□■地域福祉に対する意識（参加）について

●地域にどういう人が住んでいて、どういうニーズがあるのか掴めない。
●南国市の地域単位である『小部落』について、他所から来た人は分からないのではないか。地域での絆やつながりの感覚が理解できず、参加しづらい雰囲気がある。
●もっと分かりやすい福祉の説明や勉強会が必要だと感じる。
●子どもに対して、福祉教育をさらに充実するべき。
●関係団体にアンケートを依頼したところ、うちは福祉団体ではないと断られるということがあった。地域福祉というものがまだ浸透していないと感じた。

□■地域におけるつながりについて

●地区によっては、以前から住んでいる人と、新しく入ってきた人が二分化し、地区社協も２つに分かれたところがある。
●地区の運動会が、３地区で取り止めになった。地域活動に参加するにしても、そもそも参加する場自体がなくなると、手段がなくなってしまう。地域の行事は存続していかなくてはいけないと感じる。
●昨年、他市に引っ越したが、その際、市役所で何の案内も受けられず、ゴミ捨て場も分からないという状況だった。転居する人は少なからず不安を抱えており、そういう心細い思いをしている人もいると思う。

☑ 住民に対して、福祉に関する分かりやすい説明（勉強会等）が必要
　その上で、地域福祉の意義と重要性を理解してもらえるような啓発が必要
☑ 福祉意識を高めるためには、子どもへの福祉教育の充実が必要
☑ 転居してきた方が、地域に馴染めるような場や機会が必要

□■防災について

●移動が困難な人に車椅子を貸すことは（団体の方で）できるが、ではその車椅子を誰が押すのかという問題がある。
●日頃から、ヘルパーが近所の人にあいさつするだけでも、ここにヘルパーを必要とする人が住んでいるということの啓発になると思う。
●アンケートで、市民の約半分は平日の日中に仕事等で市内にいないという結果が出ている。災害時避難のリーダーを決めていても、その人が（災害時に）必ずいるとは限らない。

☑ 地域における日頃からのつながりや、支え合いの意識の醸成が必要
☑ 住民一人ひとりがリーダーだという意識付けが必要

□■連携について

●１つの地区の中で、色々な団体が連携するという取り組みが成功しているのは、稲生地区。
●今後は他地区においても、地域コミュニティを進めていくべき。

☑ 各地区で実情に応じた地域コミュニティを進めることが必要

□■その他

●サークル活動等において、障害のある人だけでの利用・参加を断られることがある。一方で、地区によっては、地域行事等に積極的に参加させてもらい、感謝されるところもある。障害や障害のある人への理解は、まだまだ人や地域によるところが大きいと感じる。
●図書館等の文化施設が整備されていないことも、地域のつながりの希薄化に影響しているのではないか。
●『福祉』という文字で、特別な福祉サービスを連想する人が多いのではないか。『ふくし』と平仮名で書いて啓発するのも１つの手段ではないかと考える。

☑ 障害者計画等との連携を図った、障害や障害のある人への理解の促進が必要
☑ 図書館等、地域住民が集いたくなるような場の整備が必要
☑ 住民の側に立った、福祉の啓発方法を考えることが必要